

(仮訳)

## 金融安定理事会による報告書

### 「クロスボーダー送金の目標達成に向けた実装方法の策定：最終報告書」

#### エグゼクティブ・サマリー

本報告書は、「クロスボーダー送金の改善に向けた G20 ロードマップ」<sup>1</sup>の目標に向けた、金融安定理事会 (FSB) による進捗状況のモニタリング枠組みの策定について、アップデートを提供する。より安く、より速く、より透明で、よりアクセスしやすいクロスボーダー送金の実現のための野心的な定量目標は、FSB の「クロスボーダー送金の 4 つの課題の対処に向けた目標の最終報告書」(目標報告書) (2021 年 10 月)<sup>2</sup>で定められた。説明責任を果たし、モメンタムを維持するため、FSB は、重要業績評価指標 (KPIs) を用いて当該目標に向けた進捗状況のモニタリング枠組みを策定することにコミットした。

KPI の策定と、これら KPI の最初の推計値を計測するためのデータソースの特定を任務とする FSB のワーキンググループは、モニタリング枠組みの確立に向けて大きく前進した。ワーキンググループは、2022 年 7 月に公表された中間報告書<sup>3</sup>への市中からのフィードバックを含む官民両セクターからのインプットを活用し、潜在的なデータソースの広範な検討に取り組んできた。ワーキンググループの提案する枠組みは、目標報告書の 3 つの決済セグメント — ホールセール、リテール、レミッタンス — の 11 の目標について策定した KPI を含む。

本報告書で示された枠組みは、目標報告書で明確化された原則と整合的に設計されている。第一に、この枠組みは、可能な限り既存データの収集やチャネルを活用することによる、簡素なアプローチを採っている。中間報告書に寄せられた市中からのフィードバックに沿って、KPI の最初の計測のために検討されている主要なデータソースには新たなサーベイは含まれておらず、FSB によるこれらのデータソースの活用は、業界関係者に課される追加的な負担を最小化する。第二に、この枠組みは、集計データに依拠する KPI とデータソースを示し、それによって個別事業者ではなくシステム横断的な改善をモニタリングする。第三に、主要なデータソースは、各決済セグメントにおけるエンドユーザー毎の異なる特性を十分に代表することを目指している。

モニタリングの枠組みを策定するに際して、ワーキンググループはホールセールおよびリテールの決済セグメントの定義の調整を提案し、FSB は本報告書をもってこれを採用した。様々なデータソースの分析やステークホルダーとの対話を通じて、ホールセールの決済

<sup>1</sup> 金融安定理事会 「[クロスボーダー送金の改善に向けたロードマップ](#)」 (2020 年 10 月)

<sup>2</sup> 金融安定理事会 「[クロスボーダー送金の 4 つの課題の対処に向けた目標の最終報告書](#)」 (2021 年 10 月)

<sup>3</sup> 金融安定理事会 「[クロスボーダー送金の目標達成に向けた実装方法の策定：中間報告書](#)」 (2022 年 7 月)

セグメントは、(非金融セクターが関与する取引を含め) 最小閾値を上回る金額の全ての取引を含むように再定義されるべきとの結論に至った。これにより、異なるユースケースとエンドユーザーの体験をより明確に分別することが可能となる。また、調整された定義は、決済業界とエンドユーザーが最も典型的に用いる定義にこれまでより沿うものとなっている。ワーキンググループは、どの値に閾値を設定すべきか引き続き検討している。

目標報告書における原則と統合的なモニタリング枠組みの策定は困難を伴った。クロスボーダー送金のエコシステムは複雑かつ重層的であり、多様なエンドユーザーや決済サービス事業者、インフラから成り立っており、これらの全てが断片化され不均質な潜在的データソースに繋がっている。したがって、市場全体を代表するグローバルな KPI の計測を可能とし、かつ地域または送金経路のレベルでの情報粒度を提供するような包括的なデータソースは存在しない。FSB は、策定したアプローチにおけるデータや計測手法に残存するギャップを引き続き精査しており、枠組みの詳細を更に示すに当たっては、各 KPI について代表性のある推計値を提供するための十分なデータへのアクセスと、著しく追加的なあるいは負担になるデータ収集の回避との間で両立を図っていく。FSB は、必要となりうるいかなる新たなデータ収集の方法が、引き続き、焦点が絞られ、規模や範囲の面で適切に限定され、目標報告書の原則と統合的であることを確保していく。

中間報告書で述べたとおり、この枠組みは先行きの進捗のモニタリングをサポートするが、本報告書では KPI のベースライン推計値をまだ示してはいない。FSB は、ホールセールおよびリテールの決済セグメントの潜在的なデータ提供事業者との対話を継続している。したがって、利用し得る潜在的なデータ提供事業者に関する具体的な情報は、現段階では依然として非公表となる。潜在的なデータ提供事業者との最終合意に達するための必要な手続きと、KPI のベースライン推計値の計測には、もう数ヶ月を要する。

目標との整合性を踏まえ、KPI はグローバルレベルで定義されている。もっとも、改善の進捗と課題の残存の状況についてより充実した理解を促すため、FSB は、グローバルな KPI のより詳細な内訳を可能な限り公表することを想定している。グローバルな KPI とより詳細な内訳およびデータの分析の組み合わせは、クロスボーダー送金におけるコスト、スピード、アクセス、透明性の 4 つの課題の改善に関する包括的かつきめ細かな把握につながる。

以 上